

<フィリピン・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2025 年 5 月 16 日

フィリピンの 2025 年第 1 四半期 GDP 成長率は 5.4%

フィリピン統計庁(PSA)によれば、2025 年第 1 四半期の実質国内総生産(GDP)の成長率は前年同期比 5.4%となり、2025 年の政府目標(6.0~8.0%)には及ばなかったものの、海外出稼ぎ労働者からの送金増などを背景とした家計の消費支出の伸び加速に支えられて 2 四半期連続で加速した。

主要な経済部門では、農林水産業は前年同期比+2.2%と緩やかであったが、製造業等鉱工業が同+4.5%、サービス業が同+6.3%と堅調な成長を示した。個別産業でみて第 1 四半期の成長に特に貢献したのは、商業(前年同期比+6.4%)、金融・保険(同+7.2%)、製造業(同+4.1%)であった。

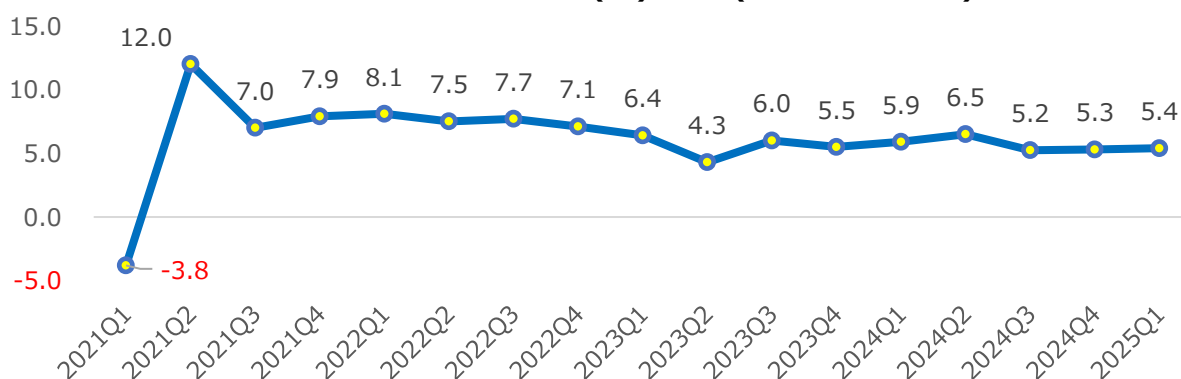
需要側で第 1 四半期の成長に貢献したのは、全体の 7 割強を占める家計の消費支出(同+5.3%)、政府の最終消費支出(同+18.7%)、総資本形成(同+4.0%)、輸出(同+6.2%)等であった。民間の住宅建設や鉄道、道路など大型インフラ整備が成長に寄与した。なお、輸入は同+9.9%であった。

経済企画開発省のアルセニオ・バリサカン長官は、第 1 四半期の GDP 成長率を発表済みのアジア主要国の中でベトナムの成長率(6.9%)には及ばないものの、中国と並ぶ 2 位の成長率であった。主要な国際機関がフィリピンを引き続き地域で最も成長率が高い国の一つと見なしており、マルコス・ジュニア政権はこの成長を持続させるために改革を続けていくと表明した。すなわち、政府は、消費者の購買力を守り、より成長を促進する金融政策を可能にするため、供給側の対策を通じてインフレを抑制することに引き続き取り組んでいく。そして、投資誘致、インフラ投資の増加のほか、重要な経済改革の推進は今後も継続する方針である。さらに、欧州連合、アラブ首長国連邦、米国などとの貿易パートナーシップも拡大していくことも同氏は付け加えた。

なお、2025 年の GDP 成長率について、世界的な貿易の混乱や不確実性の影響により、4 月に世界銀行は 6.1%から 5.3%へ、国際通貨基金(IMF)は 6.1%から 5.5%へ同国の見通しを引き下げている。

(前年同期比、%)

四半期別実質GDP成長率(%)の推移(2018年価格基準)



出所：フィリピン統計庁(PSA)

以上

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。